

檜原の棚田

檜原の棚田は標高 500 メートルから 700 メートルの間にあり、日本でもっとも有名な棚田のひとつです。その石垣や土壁、竹の灌漑システム、また歴史的な水車と共に、これらの棚田は豊かな郷土史の生きた記念碑となっており、集落と自然の古くからのやりとりを垣間見せてくれます。これらの棚田は 1999 年に農林水産省によって日本の棚田百選に選ばれ、2010 年には文化庁によって重要文化的景観に指定されました。

三つの異なる景色

檜原の棚田は、下檜原、中檜原、上檜原の、三つの異なる高さに分けられています。どれも印象的な景色を持っていますが、写真の撮影で最も人気があるのは下檜原です。下檜原には曲線状の畦を持つ小さな水田（それぞれ約 190 平方メートル）が複数あり、すっぽりと山々に囲まれています。春には水を満たした田んぼに映る空、夏の終わりには吊るされ天日干しにされる稲束、秋には紅葉するもみじ、そして冬には時折雪に覆われる棚田など、四季折々の風景を見せてくれます。

中檜原には土で作られた棚田の壁が多いですが、上檜原と下檜原では石壁が使われています。これらの石垣の割れ目には植物が生い茂り、棚田が生物多様性に貢献する多くの方法のうちの一つとして、カエルやヘビ、昆虫などに生息地を提供しています。水は用水路から竹の樋を利用して田畑に引かれ、その水はひとつの水田からまた次の水田へと流れ落ちていきます。このような配水は、どのようにこの農村が限られた自然資源を効率的に利用してきたかの証しとなっています。こうした地域の生活や景観の側面が全国的に認められ、これらの棚田は 2015 年に環境省によって（集落、二次林、水田、および用水路との間の相互関係の特徴とする）重要里地里山に指定されました。

農村の音風景

二十世紀初頭には、この集落のほとんどの世帯が米を脱穀するための水車を使っていました。これらの水車は使用されなくなり、しばらくの間見られなくなりましたが、1998 年に一基が下檜原に復元されました。水車の音は、溪流や用水路が立てる音や、作業中の農家の人々の声、野鳥のさえずりと混ざり合い、この地域ならではの音風景を作り出しています。

休憩に立ち寄る場所

上勝内の棚田で公共の休憩施設を備えているのは檜原だけです。下檜原では、お蕎麦屋さんであり、カフェであり、また民宿でもあるあさかげ亭で、棚田の絶景を眺めることができます。中檜原には小さな休憩施設があり、上檜原には峯田と呼ばれる古民家の休憩所が山犬嶽へのハイキングコースの入口にあります。